

### 3. 論点③：これからの図書館に求められる機能とは

論点①、②においては、図書館の現状について検討してきた。これを踏まえ、論点③では、今後の松江市の図書館に求められる機能について意見を出し合った。松江市の未来につながる図書館像について検討することは、この検討委員会の大きな目的のひとつである。

#### (1) 子どもから大人まですべてのライフステージに寄り添う図書館

市民が利用しやすい図書館づくりに必要なコンセプトの一つに、「子どもたちにとって身近な図書館」が挙げられた。幼いころから安心して図書館に出かけられること、家族で読書を楽しむこと、学校での図書館活用教育と相互につながることである。小さい子どもの頃から本に触れることをとおして、生涯の学びを支える“非認知能力”を高める役割を図書館が担うことが必要と考えられる。

また、生涯にわたる図書館利用を通して、図書館は一人ひとりの利用者のライフステージに寄り添うこと等がこれからの図書館を考える視点に必要という意見があった。

#### (2) 利用者のニーズに応じた設備と情報収集機能の向上

利用者のニーズが多様化する中で、視覚障がい者向けの音声ガイドや音読コーナー、電源やフリーWi-fi など利用者のニーズに応じた設備の充実、蔵書の質や量の充実、電子書籍やデジタルアーカイブの導入など情報へのアクセシビリティの向上、情報収集のし易さを求める意見もあった。

#### (3) 他の機能との複合化

利用しやすい雰囲気づくりとして、カフェ等を含む複合施設に関する意見もあった。一方で、複合する施設の内容が、教養、調査研究のための情報収集といった図書館本来の機能を求めて来館する利用者の満足度を下げることにつながるようにすることが必要という意見が出された。

#### (4) まちづくりを担う人づくりの場

上記に加え、図書館を、個人の利用に加え市民の横のつながりの場のひとつとして活用すること、図書館がコミュニティ形成の場であることも求められた。そうした「場としての図書館」では、多様なニーズを持って集まってくる市民に、図書館が何かきっかけ（例えば、各種講座やイベントの開催等）を提供することで、利用者同士のつながりが生まれ、そこから新たな創造につながる可能性がある。図書館はそうした場を演出する機能を有しているとも考えられる。

図書館は市民の学びの場である。まちづくりには人づくりが欠かせない要素であり、図書館は人づくりを支援する重要な役割を担っている。このことを念頭に、まちの未来につながる図書館の役割を今後も具体的に検討する必要がある。